

3月17日

## 日本の信徒発見の聖母

祝日

キリスト教への迫害が少し緩やかになった一八六五年のこの日、十数名の男女が、建てられて間もない大浦天主堂を訪れ、プチジャン神父に「わたしたちは皆、あなたと同じ心です」と、キリスト教の信仰をもっていることを告げた。彼らは、二百年以上にも及ぶキリスト教への厳しい弾圧を、不屈の信仰をもって耐え忍んできた人々の子孫である。この日の名称は二〇一五年から「日本の信徒発見の聖母」に変わり、日本固有の祝日として祝うことになった。

聖母共通

読書

第一朗読（一ペトロ 1:3-12）

あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、信じており、言葉では言い尽くせない喜びに満ちあふれている

使徒ペトロの手紙

わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。

この救いについては、あなたがたに与えられる恵みのことをあらかじめ語った預言者たちも、探求し、注意深く調べました。預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです。彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのためであるとの啓示を受けました。それらのことは、天から遣わされた聖霊に導かれて福音をあなたがたに告げ知らせた人たちが、今、あなたがたに告げ知らせており、天使たちも見て確かめたいと願っているものなのです。

答唱（詩編 66・12、16-17）

- 先 神をおそれる者は耳を傾けよ。  
神のわざを語ろう、わたしの上に行われたことを。
- 答 わたしたちは火と水の中を通り、  
あなたはわたしたちを救い、自由にされた。
- 先 わたしは神を叫び求め、  
賛美の歌が口にあふれる。
- 答 わたしたちは火と水の中を通り、  
あなたはわたしたちを救い、自由にされた。

## 第二朗読

### ジラール神父にあてたプティジャン神父の手紙

わたしたちの心はみな、あなた様の心と同じでございます

敬愛申し上げる神父様

心からお喜びください。わたしたちのすぐ近くに、昔のキリシタンの子孫がたくさんいるのです。彼らは、わたしたちの聖なる信仰についての記憶を大切に心に留めているようです。まずわたしに、この感動的な出会い、自ら目の当たりにし、こうした判断を下すにいたったこの出会いを簡単に物語らせてください。

昨日の十二時半ごろ、子どもを交えた十二名から十五名ほどの男女の一団が天主堂の扉の前に立っていました。単なる好奇心で来た人たちとは振る舞いが違って様子の様子でした。天主堂の扉は閉まっていたので、わたしは急いで扉を開き、内陣の方に進んで行くと、この人たちも後からついてきました。一か月前にはじめてあなたがわたしたちにお与えくださり、いつの日にか現れるかもしれないキリシタンのために、わたしたちが聖体の形態のもとに聖櫃の中に大切に安置しておいた神なる主の祝福を、わたしは彼らの上に心から祈り求めました。

わたしは救い主のみ前にひざまずいて礼拝し、周囲にいるこの人々の心の琴線に触れ、この中から主を礼拝する者を主のみもとに引き寄せることのできる適切なことばをわたしの唇にお与えください、と懇願しました。ほんの一瞬祈った後でしょうか、四十歳か五十歳ほどの一人の婦人がわたしのそばに来ると、胸に手を当てて申しました。「ここにおりますわたしたちの心はみな、あなた様の心と同じでございます」と。「ほんとうですか」とわたしは答えました。「あなたがたはどちらの方ですか」。「わたしたちはみな、浦上の者でございます。浦上ではほとんどみな、わたしたちと同じ心をもっております」。そして、すぐにその同じ人がわたしに、「サンタ・マリアのご像はどこ」と尋ねました。「サンタ・マリア」、このめでたいみ名を耳にして、わたしにはもう疑う余地がありません。わたしの目の前にいるのは、まぎれもなく日本の昔のキリスト信者の子孫なのです。わたしはこの慰めを神に感謝いたします。

わたしは、このいとしい人々に取り囲まれ、促されて、彼らを聖母の祭壇へ、あなたがフランスからお持ちくださったあのご像が安置してある祭壇へと案内しました。彼らはみな、わたしにならってひざまずき、祈りを唱えようとしていましたが、あふれる喜びに耐えきれず、聖母のご像を仰ぎ見ながら、口をそろえて、「ほんとうにサンタ・マリア様だ。見てごらん。御腕に御子ゼスス様を抱いていらっしゃる」と感嘆の声を挙げました。そして、すぐにその中の一人が申しました。「わたしたちは、霜月の二十五日に、御主ゼスス様のご誕生のお祝いをいたします。御主は、この日の真夜中ごろに家畜小屋の中でお生まれになり、貧しさと忍耐のうちに成長され、御年三十三歳の時、わたしたちの魂の救いのために十字架にかかってお亡くなりになりました、と聞いております。今は悲しみの季節（悲しみ節）です。あなた様方にもこのような祝祭日がおありでしょうか」と尋ねるので、「そうです。今日は悲しみ節の第十七日に当たります」と答えました。わたしは、この「悲しみ節」という言葉をもって、四旬節のことを言いたいのだとわかりました。

この善良な参観者たちが、聖母マリアのご像を見つめて感動したり、わたしに質問をしたりしている間に、ほかの日本人たちが天主堂に入ってまいりました。わたしの周囲にいた人たちは、たちまち四方八方に散りましたが、すぐにまた戻ってきて、「まったく心配する必要はございません。彼らはわたしたちの仲間、わたしたちと同じ心の者でございます」と申しました。

わたしは、天主堂を参観するいろいろな人が絶え間なく往来するのに妨げられて、この参観者たちと思うように話をすることができませんでした。けれども、浦上のわたしたちのキリスト信者——今日からわたしは彼らをこのように呼びたいのです——との間で、彼らが出直してわたしたちに会いに来るといふ申し合わせをしました。彼らが何を保ってきたのか、少しずつ確かめることにいたしましょう。彼らは十字架を崇め、聖なるおとめマリアを大切に、祈りを唱えています。しかし、それがどのような祈りなのか、わたしにはわかりません。そのほかの詳しいことは、近日中にお知らせ申し上げます。

一八六五年三月一八日 長崎にて

日本の使徒座宣教師 ベルナール・プティジャン

答唱（エゼキエル 34・11、14c、16 参照）

先 見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、  
彼らの世話をする。

答 彼らは良い牧場と肥沃な牧草地で養われる。

先 わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、  
傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。

答 彼らは良い牧場と肥沃な牧草地で養われる

## 結びの祈願

いつくしみ深い神よ、  
あなたの恵みに支えられて、日本のキリシタンは厳しい迫害に耐え、  
七代にわたって信仰を守り抜きました。  
この日、サンタ・マリアの導きによって、  
長崎でその末えいが発見されたことを喜び祝うわたしたちも、  
聖母の祈りに守られて試練に耐え、  
力強く信仰の道を歩むことができますように。